

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の憩いと安らぎそして、大きい声で笑う声が聞けるよう、入居者の落ち着きと心の安定に気をくばる、明確な運営理念が職員間で共有され実行されている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引き継ぎにおいて、運営理念を職員みんなで唱和して確認を行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開けたホームとして、鍵をかけない、そして介護職員と一緒に自由に散歩をしている状態を見ていただくため、家族や地域の人に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設長の出身自治会であり、近所との日常的な付き合いも行っている。入居者の散歩にも気軽に挨拶をしていただけるし、こちらからも声をかけ努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長と自治会の付き合いは十分出来ている。今年は、氏神さんのお祭りで新名地区の大頭屋の総代を行う。	○	ホームと近隣自治会の交流を、今以上に取り組み色々な人が立ち寄っていただけるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症だけの相談でなく、高齢者に関する様々な相談があれば対応をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は新しい人が多く、実施する意義も理解できていないと思うが、勉強会を月1回行っており、意識改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今のところおおむね3か月に1回の割合となっている。	○	今年の初めはほとんど出来ておらず5月に第9回が出来たが、今年は4～5回は出来るように努力する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	解らないことなど色々と教えてもらっている。また実地指導によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見人制度についての勉強会に出席して知識を得ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会にも出席し職員にも顕在化を図り防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約については特に家族の方に十分な説明を行って理解・納得を得ていると思っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や行動に注意していつもと異なる表情や行動の時、本人に直接「何かありましたか？」と聞き、家族の方へ報告する。また何かあれば改善する。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回グループホーム高瀬だよりを作成し、写真や文章を入れて家族の方に送っている。職員の移動については家族の方の問いかけがあれば説明する。特に報告していない。	○	毎月の請求で2/3の家族の方が、現金支払いで来所される。その時必ず利用者のその月に起こったことや以前との変化を伝えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に苦情相談箱を設置している。また苦情の相談などの外部施設やフローなどを玄関の掲示板に貼りだしている。		運営推進会議において家族の方の意見や要望を聞き運営に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に機会を作っていないが、毎日の引き継ぎの時、意見や提案があれば聞いている。また良い意見や提案があれば改善している。	○	3か月に1回程度、食事会などに行き自由な意見を聞き取り入れている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	施設長、管理者が職員以外に常駐しているため利用者や家族の声を聞き対応が出来る。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は離職者出さないように努力をしているが定着率は低い。	○	採用時、1か月以内に作業療法士による新入時の注意事項や、認知症についての職員教育を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の勉強会、研修会などのパンフレットで出席を募るなど機会をつくっている。またグループホーム協議会の勉強会に参加できる職員は施設長より指示を受ける。</p>	<p>1カ月に1度、1時間30分ほど作業療法士による勉強会を行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設長や管理者同士の交流は行っている。</p>	<p>当施設には畑があり、他の施設の方を芋掘りに招待している。また、花見の時は他の施設の方と合同で行い当施設のトイレを解放している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生による、3カ月に1回程度の食事会などがある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>給与体系の見直しを行い、働きや免許取得に応じて職員が向上心を持って働けるよう、賞与、昇給を能力給としている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム高瀬において入居してからの信頼関係作りとなるため入居してから本人自身からよく聞いて受け止めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム高瀬において家族の相談からの信頼関係作りとなるため家族が困っていること、不安なことなどをよく聞いて、アドバイスや相談に乗っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの説明をすることもあるが、大多数の家族はすぐに何とかしたいと言う方が多い。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム高瀬においては入居が先の方がほとんどであるがホームに馴染めるよう家族の方と共に相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日本のことわざなどを、よく覚えられていて反対に教わることが多い。また紙芝居を作り色ぬりをしていただくと上手に塗られ、みんなの前で読んでもらうと上手に読まれる、といった関係を築いている。		理解度に応じて個別対応が必要なため、1対1での対応に取り組んでいるものもある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいろいろあり、途中で代理人が替わる家族があったが、それらの家族も利用者である母親の事を心配しているため、ホーム便りを送り今現在の状況を知らせている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方が少しでも多く来ていただけるよう入居者の情報を多く流し来訪の回数が増えるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の来訪を歓迎しているが、近頃は秘密保持と言うことで、入居しているかいないかの返事さえ難しくなっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホーム全体では、入居者同士がうまく支え合えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在も数人の家族さんとの付き合いがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の、思いや暮らしの希望や意向は個別に把握し、個別にアセスメント方式で作成している。	○	時間が過ぎると、希望や意向に変化が出る事があり、再度家族を含め話し合い、希望にあった内容になるよう努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や本人または、入居前の施設等より、生活歴等を聞き取りして、サービス利用の内容等を把握し、入所時に聞き取り個別に作成している。	○	家族の方が面会にこられたときや、本人との雑談で聞いていなかったことを掘り起こし、さらなる把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の過去の経験等を聞いたり、心身状態や動きのスピード等を見ながら、総合的に把握して、役割分担などを決めて行っている。	○	出来ることの幅をもっと細やかに探り、個別対応をしていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの、家族及び本人からの希望や意向を聞きながら、個々のケア計画を作成し、日々のケア計画に直結出来るよう個々のファイルをすぐ目に付くところに置いてある。		作業療法士を講師に入れ、月1回、中心職員が参加が出来るケースカンファレンスなどの勉強会等を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3カ月と6カ月ごとに見直しを行い、変化があれば本人と家族の意見を聞きながら、新たな計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、変化や気づきを記録して情報交換を行い、その他連絡事項等については、連絡ノートを用いて夜勤から日勤へ、日勤から夜勤へ引き継いで、個々の介護記録に記入し情報を顕在化して、それを用いてケアカンファレンスを行っている。	○	職員間での情報伝達を、確実なものにするために会議の実施を含め、申し送りノートの書き方を検討する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に病院への通院、リハビリへの通いなど、家族の代行が十分出来る体制が取れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴でのボランティア等の慰問、秋祭りの太鼓と獅子舞、正月の餅つきのボランティア、消防訓練など地域の資源を活用した支援を行っている。	○	町の行事に、参加可能な人だけでも参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向に応じてリハビリの必要な方は、病院のサービスを利用するため送迎を行いPT、OTの補助をしながら支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の紹介や運営推進会議にて意見など協力を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2医療機関と提携を持って適切な医療を受けたり、定期的に健康診断を行ったり、特定の入居者であるが月1回、医師が訪問診療を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の医療機関と提携を持っており、定期的に診察を行っている。また急変したときは、不定期に診察を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設には准看護師が2名いるが、パート採用のため常にはいない。日常の健康管理は、バイタルチェックを定時に行って、生活記録を作成している。また病院受診の際は、受診記録を作成している。	○	日常の健康管理や医療の支援は訪問看護ステーションと契約を行い、医療連携加算を取るように対応したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合医療機関と連携、情報交換を行い早くホームに帰れるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに近くなられた方は医師も入ってもらい家族と打ち合わせをしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りが必要になった入居者は、かかりつけ医と共に支援に取り組んでいる。	○	家族に来ていただき、看取りを行うことで医師も同席の上打ち合わせを行う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む施設等には、診療を受けている病名、服薬の名前、体調や日常生活リズム、支援内容等をファイルにして提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者には心のこもった言葉かけで対応している。記録はホームにて書き、外には持ち出さない。また、声かけで出来ていると思っても、たまに入って聞いてみると乱暴な言葉になっていることがある。	○ 他施設の見学の為、相互評価事業に参加して職員の質を上げていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	洗濯物や食事の手伝い等は声かけをしながら職員と一緒に自分で行ってもらう。気分が乗らない時とか、出来ない時は時間をおいたり、職員が行う。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カンファレンスを中心に、物事をあわせて一人ひとりのペースに合わせた介護・介助をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の洗面後の髪をといたり、更衣を自分で出来る方は、コーディネートを手伝いながら自分で行ってもらう。麻痺のある方は介助している。理美容は2カ月に1度、専門家に来てもらい行ったり、2人ほどは家族の方が連れて行ったり、1人は外の理容店に施設から連れて行く。	○ 認知が進み、服装のコーディネートをしていてもすぐ部屋に行って何枚も重ね着をされるがすぐに着替えてもらう。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通の日には出来る方に配膳、豆むき、ささがき等を行ってもらう。また週1回、自分たちで作る料理の日があり、職員の手を借りながら作っている。また、食べた後の食器の布巾かけなどを行ってもらっている。	○ 入居者で行う調理の日を週2回にしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的には行っていない。ただ気分の落ちている方は気分転換にて月1～2回買い物に思いついたときに支援する。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄記録を見ながら個々に応じてトイレ誘導を行っているが、パッドが汚れている時が多い。	○	パッドが汚れている方の、もう少し早いトイレ誘導を行い、パッドの汚れでの交換を少なくする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と入浴時間は、ある程度決まっているが、入浴の順番や入浴時間は入居者に声かけて、一人ひとりに合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠中は、安心して眠れるよう見回りを行い、事故の無いよう定期的または、物音がした場合は不定期に見回り、トイレ誘導、生死の確認等を行う。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンスにて「出来ること」の支援に努め、役割では調理や掃除、楽しみごとでは歌や紙芝居、ことわざや4文字熟語など、気晴らしでは近隣の景勝地、ドライブ等で楽しませている。		物理的に買い物に行ける人は月に1～2回行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことや使うことの大切さは理解して、たまに買い物に行くが、基本的にお金を本人は持っていない。施設での立て替えにて実行している。	○	物理的に行ける人で、家族の方の色々な考え方があがるが月2回程度の買い物支援を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1か月に1回、近隣の景勝地へ行ったり、毎日の川の土手の散歩など一人ひとりの力に応じた距離にて行っている。また雨の日には、足に重りをつけた足上げ体操を行っている。		全介助の人も晴れた日は必ず日光浴に出させていただく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1か月に1回、近隣の景勝地へ行ったり、入居者が落ち込んでいるときなどに車に乗せてドライブに行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方のみ電話したいといった場合取り次いでいる。入居者自ら電話はしていない。手紙は届いた入居者が目を通しているが、自ら書かれる方は限られている。最近は全員が書くことが出来なくなった。	○	日記を付けたり、書く事への気力をつけていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる雰囲気は十分あり、訪問された方には喜ばれている。	○	お客さんへの案内の仕方、お茶の出し方、言葉使いなど接遇にも取り組む。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が常に勉強をして正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室に鍵をかけていない。また人の出入りについてはセンサーにて対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で声を掛け合いながら利用者の所在や様子を常に把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物等に関して保管場所、保管方法を取り決めており管理が出来ている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態が発生した場合、その日のうちに反省会をして報告書をまとめ、再発防止の改善に努めている。	○	危険予知訓練を取り入れて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルはある。けが、意識の程度によって救急に連絡を取る。応急手当や初期対応は出来るが、定期的な訓練は不十分である。	○	日赤の救急法救急員養成講習会に参加して出来るだけ多くの職員が対応できるよう取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等により、避難方法、避難場所の確保等は理解され、運営推進会議により自治会には協力を得られている。		消防にも参加いただきマニュアルに基づいた基礎訓練を重ね、落ち着いて行動が出来ている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	管理者、職員からの情報、連絡を家族に伝え対応策を話し合っているが十分ではない。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調は、顔色、バイタル、食事量、排便排尿等により異変の早期発見に努め、速やかに受診対応をしている。時には救急車を呼ぶこともある。それらを職員同士で共有化している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬の働き、副作用、注意事項等を正しく理解して間違いの無いよう支援を行っている。		入居者個々の薬ファイルを作成して1カ所に顕在化している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録を検討しながら運動、水分摂取、薬物等にて適切な処置に取り組んでいる。	○	排泄記録はあるが記録漏れがたまにあるので注意したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず歯磨きチェックを実施して汚れ、臭いの除去に努めている。利用者の能力に応じて、指導と介助による支援を行っているが拒否のある方もいる。		どうしても拒否のある方は専門職による口腔ケアを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カンファレンスで話し合い摂取できるよう検討している。食べる量、水分摂取量は記録され、入居者の状態を把握している。		食欲低下、消化能力低下などの入居者に対し形態を変えてアプローチしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル化している。手洗い、うがい、消毒等も習慣づけて実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清掃を義務づけ、調理用具、食器等にはハイターにて滅菌し、熱処理を行っている。	○	食材の賞味期限の確認を常に行い期限切れの食材は処分している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻りの清掃は毎日行われている。花壇を設け、季節に応じた花が植えられ、玄関内は生花を生けて心が和む環境を作り閉鎖的なイメージもなく親しみやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、清掃、整理整頓に心がけ、しかも生活感、季節感も取り入れて、快適に暮らせる工夫をしている。また玄関には花や人形が飾られ工夫がなされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数の共用スペースがあり、自由に利用できる工夫が施されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には自分で集めた野花が飾られたり、本人が好む敷物や小物を置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内は大きい窓に囲まれ、複数の換気扇がある。強制換気だけでなく、1日に数回窓を開け室内の上よみだ空気の入れ換えを行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の廻りに手すり、危険物を取り除き、活動しやすい広さを提供している。筋力トレーニング用の器具も用意され、十分な環境を造っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各人の残存能力を維持できるよう、居室、トイレ、洗面、食堂、リビング、浴室まで動きやすく分かりやすい動線となっている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内外を散歩したり、日光浴、外気浴を楽しんだり、ベランダではお茶を飲んだり唄を歌ったり、また、ベンチをたくさん配置している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者について昼間の時間帯は、玄関は常に開かれており、散歩などもある程度自由であるが、職員と一緒になければ出られません。しかし、施設廻りはロケーションにも恵まれ、地元の散歩コースでもあり、たくさんの木々や花や川があり、安らぎを感じることが出来ます。また、そこに集まる地元の人々との会話により安らぎを感じ、笑いが生まれます。そんなのんびりとした施設となることを理念に掲げ、実践していております。職員については新しい職員が多くまだ色々な失敗やつまづきがありますが、自分の仕事は速く、入居者との関わりはゆっくりとをモットーに、そして勤務時間が終われば速やかに帰宅することを目標にしている施設です。